月刊(No45)　平成16年8月1日第惨種幽貧物独自認可

月刊びゃっきープレス

byacky press

2007
6月号
毎月初回ライブ日発行

無料配布
↑あたりまえ

発　行　(謝)びゃっきーライブ連盟
http://www.satram.jp/byacky/
byacky@satram.jp
配　布　びゃっきーご本人かライブハウスの人

RAMBLING Satellite
役にたたない偏重サイト
情報がグレードダウン!!
アクセス不要
http://www.satram.jp/
info@satram.jp

白熱！ギター道

クラシックギターを入手

師匠にも恵まれ

ピアノ一本でここまでやってきたびゃっきーだったが、ついにギターを入手。タダだったので、別にやらなくてもよいのだが、「せっかく主義」をいかんなく発揮し、ギターの練習を始めた。実は過去に一度、数十分弾いただけで絶対にできるようにならないとダメ出しされたほどの腕前。その呪詛を背負った上での再出発。その裏には数奇な巡り合わせと、新たな師匠の驚くべき一言があった。

２００７年５月、弾けないピアノで無理矢理弾き語りスタイルを貫いてきたびゃっきーが、さらに弾けないギターに手を出すという暴挙に出た。クラシックギターをただで入手したためである。

実は過去に、フアッションプラザというリサイクルショップで、エレキギターをアンプ付きで５千円で購入したことがあった。その際は指が痛いばっかりでまるで弾けそうにないために、５秒で挫折した。

その時は独学でやろうとしてうまくいかなかったので、数ヶ月前に某ライブ小屋で良く会う、某サムライ系ギタリストに習おうとしたが、始めて十分ぐらいで「ダメだ。びゃっきーはピアノの人だよ。ギターが弾けるようになるとは思えない。なんかかっこわりいもん」と完全否定された。オレも「あぁやっぱりね」と妙に納得した覚えがある。

そんなびゃっきーがなぜギターを再度弾いてみようと思ったか。ただで入手したにしろどうしてか。それは新しいギターの師匠との出会いである。いや、出会いは既にしていた。何を隠そう、「６０億分の１」の音源化でヘルプしてくれたカクトー君である。彼とのレコーディングはお互い手探り状態でいろいろ楽しかったのだが、それにも増して、彼と音楽についていろいろ話をし、非常に有意義な時間を過ごした。その中で、ギターの話をしたときのこと。彼はこう言った。

「ギターを始めると、まず『これがＥです』って始めるわけじゃない。でも『Ｅ』って難しいでしょ？」

がが－ん！

「Ｆ」が難しいという話は聞いたことがあるが、「Ｅ」が難しいなんて話はついぞ聞いたことがない。そして弦を一本だけ押さえて彼はこう続けた。

「ほら、一本押さえるだけでもカッコイイ音がするじゃない」

がが－ん！　確かにカッコイイ音がする。

というわけで彼はコードを教えてはくれない。そしてカッコイイ音を自分で拾っていきなさいと言う。そして彼はカッコよくギターを弾く。うん、確かにそれなら弾けるような気がして来たよ！やるではないかカクトーさんよ！

そして二人でギターを手にしながら、ギター談義は続いた。彼のギターは音もカッコイイが、右手の動きが凝っていて素晴らしい。

「それ右手はどうやってんの？」

オレは訊ねた。すると

「え？　右手？　よくわかんないな。左手を追うのに一生懸命だから。なんかテキトーに弾いてる」

おい！　そりゃ参考にならんぞ、カクトーさんよ！

オレはそこに長嶋茂雄を見た。「こう、ボールが来たら、こう打つんですよ」と、腰をひねる、何の説明にもなっていないあの長嶋さんの教えを。天才ってヤツは、これだから困るよね。

ただ、その答えはある意味、オレを楽にしたかもしれなかった。つまり右手はテキトーでいいのである。テキトーやっていずれ形になってくりゃいいや、ぐらいな気持ちでいればいいのだから。

そしてギターが二種類目の楽器というのも超気楽である。「難しいコードを押さえるぐらいなら、やらないもん！　ストロークで弾かなきゃいけないなら、やらないもん！」と、ぶりっこすることが可能である。ところが、もしこれが一つ目の楽器なら、コードを覚えてでも、へたくそなストロークでも、やらなきゃならないのだから大変である。オレはピアノをやっていてよかった。

はっ！　果たしてピアノでそんな苦労をしたのか。

「練習曲をやんなきゃいけないんなら、ピアノなんてやらないもん！」

そんな過去のオレの声が聞こえた気がした。

（びゃっきー）